



海外・現場最前線からのお便り

海外で活躍する林野庁職員の近況を
シリーズで報告します

かつて緑だったアフリカの大地を

再び豊かな森にする



国際協力機構(JICA)・ケニア
持続的森林管理・景観回復による
森林セクター強化及びコミュニティの
気候変動レジリエンスプロジェクト
長期専門家

井上 泰子

ジャンボ！（スワヒリ語で「こん
にちは！」）、2022年9月、焼け
焦げるようなサバンナ、アフリカ大
陸の片隅の大地に立つ、ちっぽけな
私の目の前に、足を折り、地につい
て最期を迎えようとしているシマウ
マがいました（写真①）。「史上最大」と
記録された今回の干ばつ。4回連
続雨期に雨が降らず、ランドクルー
ザーで走り抜ける光景には痩せこけ
骨と皮となったバッファロー、ヌー、
インパラ等、動物たちの乾いた死体
が累々と横たわっています。

厳しい自然の掟は、そこに生きる
人々の生活も困窮させています。マ
サイ族の人々は、干ばつでやせ細る
牛たちを死ぬ前になんとか売ったと
しても、石油価格が高騰しているの
でトラックの運賃ほどの代金にもな
らないと嘆いていました。カンバ族
の人々は、枯れた川の底をいくら掘
っても水脈にたどりつけないため、
一日の大半を遠くまでの水汲みに費
やしていると訴えていました。

2022年に発足したケニアの新
政権のルト大統領は、こうした状況
を一転させるため、エジプトで開催
された気候変動枠組条約第27回締約
国会合（COP27）で、森林を増や
すことを宣言しました。ケニアは植
民地支配していたイギリスから
1963年に独立を果たしましたが、
それまでの間に行われた農業開
発により、森林率が30%（1900
年）から3%（1963年）まで減
少しました。その後の森林回復の努
力により、現在、ケニアの森林率は
8%となっています。これからの10



写真① 倒れるシマウマ



写真4 学校給食・植林プログラム



写真3 バオバブの葉

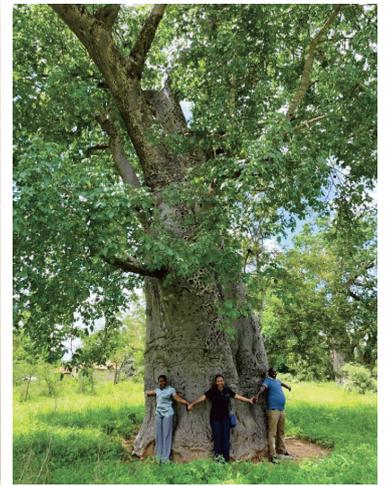


写真2 雨期のバオバブの木

年間にさらに努力を続け、森林を増やすことで、生態系そのものを回復させ、農業、畜産業、そして生きるために必要な水を取り戻そうとしています。

私は、国際協力機構（JICA）がケニア共和国で開始した「持続的森林管理・景観回復による森林セクター強化及びコミュニティの気候変動レジリエンスプロジェクト」に、2022年3月から森林政策・普及専門家として従事しています。本プロジェクトでは、ケニアの環境気候変動森林省、ケニア森林公社、ケニア森林研究所と協力し、森林政策、商業植林（コマーシャル・フォレストリー）、林木育種、地域協力の4分野の技術協力を実施しています。このプロジェクトを通じて、国家森林モニタリングシステムの確立、グリーンファイナンスの機会を活用した森林カーボンプロジェクトの提案、政策立案などの支援に取り組んでいます。

グリーンファイナンスのコンポーネントの活動では、同じくケニアで行われているJICA「食料安全保障と栄養改善プロジェクト」と共同で、バオバブとメリアを用いた学校給食・植林プログラムを開始しています。バオバブの葉は栄養価が高い

ため、子どもたちの栄養改善につながることで、メリアの木材は不足している学校机に利用することが期待されています（写真2, 3, 4）。また、政策立案の支援として、

COP27では、開発途上国における森林減少・劣化に由来する温室効果ガス排出の削減並びに森林保全、持続可能な森林経営及び森林炭素蓄積の強化（REDD+）の推進のため、ケニア政府を支援しているUNDP（国連開発計画）、FAO（国連食糧農業機関）などと共に、先進的な取り組みをしているアフリカ、アジアの国々や国際機関との情報交換を行うサイドイベントを2つ開催しました（写真5, 6）。双方のイベントは共に盛況で、多くのネットワークづくりと情報交換に役立てることができました。

“When we plant trees, we plant the seeds of peace and hope.”（木を植えるときは、平和と希望の種を植えているんだよ）、ワンガリ・マタータイ（2004年ノーベル平和賞受賞）この乾いた大地に、恵みの雨をもたらす豊かな森を取り戻すことができるよう、ケニアの人々と共に取り組んでいきます。



写真6 アフリカ・パビリオンでのサイドイベント（筆者：右か55人目）



写真5 ジャパン・パビリオンでのサイドイベント（筆者：左端）